

第3回札幌市歴史文化基本構想策定委員会 要旨

平成30年8月21日（火）14：00～

札幌市役所本庁舎8階1号会議室

次 第

- 1 第2回委員会の振り返り・スケジュール等
- 2 札幌市の文化財について
- 3 関連文化財群について
- 4 その他

開 会

○事務局 ただいまから札幌市歴史文化基本構想策定委員会の第3回会議を開催する。

本日は委員全員に出席をいただいている。また、文化庁地域文化創生本部広域文化観光・まちづくりグループの岡本公秀文化財調査官に参加いただいている。

1 第2回委員会の振り返り・スケジュール等

○事務局 前回委員会の意見等とこれに対する対応については、資料-1「第2回札幌市歴史文化基本構想策定委員会の意見概要及び対応表」のとおり。

また、去る8月3日に平成30年度の第1回札幌市文化財保護審議会が開催され、同審議会委員に対し、歴史文化基本構想の策定に関する説明を行った。この際、委員より、①都市をトータルで考えていくときには、緑地や公園は大変重要な要素であり、庁内連携を踏まえて考えてほしい、②北大構内や伊藤邸など、植物園を挟むところに、そこから江戸時代が見えるような歴史的景観という概念が存在するため、そういったことにも着目してほしい、③関連文化財群として取り上げる一例として、縦穴住居跡など、かなり古い遺構を目視できるところが市内に残っているので、こうしたものも取り上げてはどうか、④構想策定後の展開として、将来への継承という意味で学校教育における活用が重要となる、などの意見をいただいたところ。これらについて今後、構想策定の中で十分踏まえていきたい。

次に、スケジュールについては、資料の2のとおり。これまでの委員会の検討内容等を踏まえ、今後の審議スケジュールも若干変更している。今回、関連文化財群や文化財の特徴部分について、前回意見をいただいたものを踏まえて反映したものを皆様にご検討いただくが、次回（第4回）委員会以降は、関連文化財群等を踏まえた上で、文化財の保存活用の方針や体制の整備を含めた検討をしたい。

2 札幌市の文化財について

（事務局説明）

○事務局 資料-4（第3章）札幌市の文化財について、前回委員会に引き続き検討いただく。大きく変更になった部分として、前回、この後の第4章に記載していた「札幌市の文化財の特徴」という部分を第3章の後半で記載し、第4章では、そこで導き出された特徴を踏まえた、関連文化財群とストーリーについて独立して記載する方が読みやすいと考え、構成を見直した。これにより、第3章では文化財の把握の方針から既往の調査の内容をまとめ（この部分は前回と変更なし）、その後、前回は第4章に記載していた「文化財の特徴」を記載している。

この部分は、この後の関連文化財群とストーリーを導き出していく上でのベースになる部分。前回委員会で出た各委員からの意見等を踏まえて、（記載内容を修正した案を）改めて示させていただくので、よろしくご検討いただきたい。

○事務局 資料－４の内容を説明する。

２ページ目、前回委員会の意見から、事務局でも検討をし、中段の文化財の分類のイメージの中分類について、前回「実物要素」としていたところ、事務局で検討の上、景観関連部局との連携なども考慮して、札幌市独自のものとして「景観要素」というふうに変更している。

３ページ目の調査の概要について、（１）これまでの文化財調査のリストというものを追加している。こちらは、これで決まりということではなくて、今後も精査をし、追加をしていく予定。

７ページから１０ページ目まで、（１）指定・登録等の文化財の表を追加した。

１１ページから１２ページまで、前回入っていなかった、地域独自の選定などによる既知の文化財について、さっぽろ・ふるさと文化百選を初めとし、各区などで選定し、各区のホームページなどで紹介されているものを抜き出して記載している。まだ記載途中であり、今後追加をしていきたい。

１３ページから、札幌市の文化財の特徴について整理している。

１４ページ。特徴の整理の仕方の考え方は前回お示ししたとおり。前回いただいた意見を踏まえ、特徴の内容を再整理した。まだ明確でないが、大事な視点として、この表の中で一番上、一つ目の視点とし、札幌市の豊かな自然が基盤となり、全ての歴史文化の特徴に影響しているというふうに考え、まとめている。

二つ目の視点、遺跡、アイヌ文化、それから地域ごとに発展した文化とか、あとは市民の暮らしなど、時代を超えて継承されてきた文化というものがあるということ。

三つ目、開拓使やオリンピックなど、まちを大きく動かした、象徴的な出来事という視点を大切に、特徴を整理している。

こちらの表をもとに、１５ページから一つ一つの特徴について記載している。

１５ページから、「１）札幌の豊かな地形・地質が育んだ古の文化」と題し、札幌が昔海であり、世界最古の（大型）カイギュウであるサッポロカイギュウの化石が発見されていることや、縄文時代以降、主に川沿いなどに多くの遺跡が確認でき、人と自然との共生の様子がうかがえることについて記載している。今後さらにヒアリングなどを踏まえて記載内容を追記していきたい。

１７ページから、「２）藻岩山や豊平川に代表される豊かな自然と今に継承されるアイヌ文化」として、アイヌの人々の暮らしや、市内の地名や川などに残るアイヌ語をひもどくことで、その地域の特徴や、開発等でなくなってしまった自然を思い返すことができること、道内でも特に札幌市はアイヌ文化に触れることができる施設や機会が多くあること、アイヌ文化の継承について特徴として整理している。

１９ページから、「３）水の都に開拓使が築いた札幌市街地」というふうに特徴を整理している。開拓使がこの地を本府建設に選んだことから記載し、自然や地形との関係性、特にメムとの関係で、偕楽園や開拓使本庁舎などの場所を選定したことなどについて記載

している。また、お雇い外国人の活躍や、碁盤の目の町並み、今に残る創成川のにぎわい、大通公園のことについても触れている。

21ページから、「4）市域の拡大が行われながらも今に残る地域特有の歴史文化」とし、前回、札幌の成り立ちというものが見えてこないという意見をいただいたため、まだ資料の整理途中であるが、開拓使以前の、農業開拓のための入植のことや、屯田兵などによる、地域ごとで行われていた入植について取り上げ、今も残る地域ごとの特徴として整理したいと考え、本日の資料時点では、23ページ以降で、区ごとに記載を分けてまとめている。現在の行政上の区分けである10区で整理することの是非も含め、今後の（郷土）資料館のヒアリングやワークショップ結果も踏まえて、修正、追記したい。

29ページから、「5）冬季オリンピック札幌大会によって大きく変化したまち」として、オリンピック開催により様々なスポーツ施設や地下鉄などのインフラが整備されたことで札幌のまちが大きく変わり、それが現在につながっているということ、また、アジアで初めての冬季オリンピック大会の開催が、札幌の名とともに雪や自然を国内外に印象づけたということ整理している。

30ページから、「6）鮮やかな四季の移り変わり」として、鮮やかな四季の移り変わりが見られる札幌の風物詩などについて整理している。春の円山公園のお花見や夏の札幌まつり、冬のスキーや雪まつりなどで楽しむ市民の暮らしなどを記載している。

以上の各特徴は、まだ追記、修正が必要な箇所があると考えてはいるが、札幌市の歴史文化の特徴の項目として漏れがないかなど、まとめ方について意見をいただきたい。

（質疑応答）

○羽深委員 14ページの表でキーワードを並べているが、遺跡とアイヌ文化、アイヌ文化を一まとめにするのはよいが、ただ、遺跡の中にもアイヌのものが入っている。アイヌ文化のほうのS501遺跡とかS518遺跡というのは、これは、遺跡のほうではなくてアイヌ文化のほうに入るのか。有形・無形など区分けはどうなっているのか。遺跡とアイヌ文化に重複して該当するのはよいが、有形だからこっちにする、無形だからこっちにするなど明確にしないと、境があいまいになり、アイヌ文化期をキーワードとして挙げた意味がなくなる。

それともう1点、キーワードとして開拓使関連を挙げるなら、これは幕末の石狩場所というふうなキーワードで出したほうがよい。（吉田）茂八や（志村）鉄一、大友（亀太郎）と、その他の丘珠のタマネギ栽培だとかリンゴ栽培というのと一緒くたにしていると取られるような記載は、意図的に幕末の幕府がやった仕事を札幌市が無視しているとも取れるため、留意した方がよい。

○川上委員 14ページの表の部分に関連して、アイヌ文化期との記載がある一方、中世から近世と書いてあるところもどこかにあったと思う。アイヌ文化期とはいつからいつま

で言うのかというのがなかなかはっきりしない部分もあるので、日本史の区分である、中世から近世（アイヌ文化期）のような記載の方がよいのではと思う。

それからもう1点、旧石器時代以前と旧石器時代のことを一緒にしてしまっていたり、旧石器時代のところで、まだ人間の住まない時代の動物の化石の話が出てきているが、旧石器以降と旧石器より前の時代や、人の住むようになった時代とまだ住んでいない時代との区分は明確にした方がよい。

それから、10ページの記載だが、埋蔵文化財包蔵地の数が誤っているように思う（札幌市は541カ所というのが正しい）が、この500という数字はすごく多い。2番目はたしか、斜里町で370ぐらい。道内でも埋蔵文化財の包蔵地が断トツに多いということ、どこかに触れておいてほしい。

○阿部（一）委員 14ページの表のアイヌ文化期の地名で、左から二つ目、一番上のところ、「シャクシュコトニ川」について、「サクシュ」とするのが一般的と思うので確認してもらいたい。

それから、19ページの「水の都に開拓使が築いた札幌市街地」の上から7行目、「二人のアイヌの酋長とともに」という表現だが、「酋長」というのは、アイヌの言葉にはないので、首長（しゅちょう）にすべき。同様の表現がほかにもあった。

21ページ、4の「市域の拡大が行われながらも今に残る地域特有の歴史文化」というところでアイヌ民族の移住について触れられているが、樺太と千島列島にとどまらず、北海道内においても、都市部におけるアイヌ民族の強制移住があった。札幌でも、3行目に「明治4年、平岸・月寒・白石・手稲などへの移住が行われ」と書いてあるが、札幌市街地を設定するに当たって、島判官が円山から高台に上がって札幌の全部を見たときに、こうやるんだと決めて、碁盤の目の都市計画を立てたのだが、そのときに、市街地にいたアイヌの人たちを移住させたという記録がある。空知地方の新十津川周辺に、札幌市内を含む石狩のアイヌ民族が移住を強いられたと本に書いている研究者もいるため、調べていただきたい。

○甲地委員 14ページについて、前回、アイヌ時代という言葉ではちょっと不適切ではないかということで、いろいろ検討、対応いただいたが、時代区分について、明治以前は、どちらかという考古学上の区分のような言葉で記されていて、明治以降はそうではない言葉になっているのは違和感がある。学者によっても、いつから何時代と呼ぶかというのは意見があるところだと思うので、いっそのこと西暦でも、千何年ごろとか、そういう客観的な表現を軸として、括弧内に何々時代などと表記した方がよいのでは。

それから、無形文化財について、市の指定では丘珠のもの（獅子舞）などが挙がっているが、前回委員会で意見があったような、北海道神宮の祭りばやし、特に勤王隊の鳴らすはやしみたいな音楽について、札幌でないと聞けないものとして挙がるとよい。それから、昭和、平成ぐらいの時代で言うと、当然ながらアイヌ古式舞踊とくられるものが国の重要無形文化財指定を受けているので、そういったものが14ページでも出てくるとよ

い。また、市民の暮らしのところで、「など」と書かれているので、これからいろいろ加わっていくと思うが、例えばPMFは、その分野の人たちにとって親しまれて長いものだし、サッポロ・シティ・ジャズなども、一大イベントとして市民の間に定着しつつある。何かそういったものも少し要素として挙がるとよい。

○岡本調査官 14ページの歴史文化の特徴のところで、寒冷地としての生活上の工夫などについて、市民の暮らしのところで、もしくは地域ごとに発展した文化の中で少しでも取り上げられるとよい。また、前回（委員会で）指摘があったと思うが、ラーメンなどの食を取り上げていく可能性があるならば、例えば小麦の栽培などの話に展開していくなど、産業をもう少し前面に打ち出しても。

○山舗委員 各区についての記載で、宇納牧場のことが厚別区についての記載に出てくるが、宇都宮仙太郎が最初に牧場を開いたのは白石で、その上で、上野幌に宇納牧場があって、そこで最初にバターがつくられたという歴史がある。札幌市の住宅地開発で、酪農する場所が周辺地域に追いやられたり、一部緑地になったり公園化されている歴史があるのだが、宇都宮仙太郎は、北海道の酪農を語る上で大事な人なので、もちろん開拓使のところからつながりはあると思うが、白石についての記載も加えていただきたい。

食文化というものの背景に農業があり、それをあえて分ければ畜産とか酪農もあるのだが、先ほど事務局から説明があったアンケートでは、キーワードで産業と農業がまとまっている。寒冷地特有の農業の問題や、その対策から食も異なってきているので、それらは分けて考えるべきでは。

○阿部（一）委員 10区の状況や、札幌市の歴史を記載する部分だが、ほとんどが明治以降の話になっている。それ以前からアイヌ民族の生活はあり、例えば、札幌市内に残るアイヌ語地名にもそれが表れている。松浦武四郎が江戸時代（1850年代）に北海道を踏査した際に多くの記録を残しており、アイヌについての記載から例えば苗穂、発寒、琴似、北大周辺に、「土人の家何戸」などと書いており、名前が出てくる人もいる。こうした事実を書かないと、市民も道民も、開拓以前のアイヌの存在について認識しないことになる。開拓以前からアイヌの人が生活しており、そこに和人が移住してきたと分かるような記載をお願いしたい。

○事務局（意見の趣旨を確認。）

○角委員長 今の阿部委員の話は、区の発生のところは全部、どちらかというと明治期以降の記述になっているため、現実にはそれ以前から存在したアイヌの方のことを意識すべきとの趣旨。ただ、全部網羅して書くと大変な量になるので、各区の特徴も踏まえた上で書き方は検討する。例えば中学生が読んだ時に札幌の歴史が明治から始まっているような誤解を与えないような工夫が欲しいということ。

○往田委員 アイヌの方が住まわられていて、強制移住させられたという経緯から、そもそもこの土地が住むのに適した魅力的な土地だったというふうに考えられる。そこをわかって、先人を敬いながら暮らすという発想は必要。

- 角委員長** 埋蔵地が多いというのは、それとも関係しているかもしれない。
- 川上委員** 空間的な分けと、時代的な分けがあり、その両方をどう文章化するか。人が住み始めたぐらいから、簡単でもいいからつながりのある記述が必要では。
- 羽深委員** 23ページからの各区の概説は、札幌市の文化財という章のテーマに沿ったものでなければならぬところ、区の都市計画概論のような記載になっている。文化財に着目して、記載内容を見直すべきでは。
- 角委員長** 札幌市の文化財というタイトルに沿った内容でまとめる工夫が必要。
- 西山副委員長** 前も話したかもしれないが、人口100万以上でこれだけ雪の降る都市は世界にないという、圧倒的なユニークさがある。それが市民にとっては、もう受容して、克服してきていることだから、あえてそれを語ろうとしないというのがすごく見えて、もったいないと感じる。素案を見る限り、非常に穏やかな人の暮らしの中で雪を使っていますという話で終わっているが、外から来た人間にとって、真夜中にダンプを投入して行われる除雪の風景などは大変なカルチャーショックで、札幌の個性として世界に発信できるもの。

アメリカを中心とした技師が開拓使の時代に来た際、雪とどうつき合うかということで建築的に固有な特徴が生まれ、今に残る文化財となっているということを説明することで、外の人には驚くし、市民の方もそのことを再認識するきっかけにして欲しい。文化財を使ってそれをどう説明できるか工夫を。

14ページ(札幌市の文化財の「特徴」の抽出表)について、考え方について文章で説明して欲しい。「アイヌ文化」や「自然」とあるのに対し、「遺跡」とあるのが即物的な表現で唐突感があるので、「考古学的遺産」とするなど言い方の工夫も必要かもしれない。そして、キーワードや時代背景などを並べて区分しているが、一つの要素で区切られたものがほかの要素にも重複して当てはまることがあるので、見る人にそういうことが伝わるよう、説明の部分をもっと工夫して欲しい。

先ほど食と作物の関係について意見が出たが、札幌市がここで頑張っ、て、こういうことに切り口を見出せば、例えば北海道の他の自治体がこういうものをつくるときにも物の見方の枠組みとかフレームとしても役に立つと思う。

最後に、第4章で記載される関連文化財群のタイトルについて、真面目過ぎてインパクトがないように感じる。第3章で抽出した特徴の言葉が活かされているが、できればもう少し市民が口に覚えるような、もっと短くて魅力的な、インパクトのあるものでいいのではないのかと思う。

3 関連文化財群について

(事務局説明)

○**事務局** 資料-5、章立てでは、第4章「札幌市の関連文化財群」という部分。

第3章で札幌市の文化財の特徴を抽出した上で、この第4章で関連文化財群についてま

とめる流れ。前回委員会時点では、この第4章の前段で札幌市の文化財の特徴を導き出す記載をしていたが、冒頭で説明したとおりその記載は第3章へ移すこととし、構成上、第4章の記載内容を関連文化財群とストーリーに特化した形。

関連文化財群とストーリーの部分については、策定後の活用においても大変重要な要素になる。札幌市の歴史文化の特徴をよく反映したもので、かつ、今後、観光や教育、景観行政と連携して活用して行く場合のことも踏まえて議論をお願いしたい。

○事務局 資料-5の1ページ目、札幌市の関連文化財群の考え方として、①歴史的、地域社会的、空間的関連性から見出すものであること、②札幌の歴史文化を物語る上で欠かすことのできない「特徴」に関連する文化財の集まりであること、③札幌の歴史文化の特徴をよく反映したものであること、④市民が誇りだと感じるものであること、⑤関連する文化財が無形、有形ともに多く見出されていること、⑥今後も継続して市民とともに増やしていくものであることということとして整理している。

3～6ページにおいて、「2 ストーリーと関連文化財群について」として、札幌市の歴史文化を広く大きく捉えて、特徴として漏れがないように整理をし、特徴ごと、切り口をさらに絞って、ストーリーとして魅力のあるものを見出していきたいと考えている。6つの特徴から、全部で9つの関連文化財群のストーリーを見出し、整理している。

1) - 1、「変化に富む地形と先人たちの歩みが今に伝えるもの」として、遺跡と自然の関係と、現在それらについて詳しく学ぶことのできる施設などについて、一つの群とした。今後、博物館活動センターなどにヒアリングを行って、内容をより精査したい。

2) - 1、「自然とアイヌ語が教えてくれる現在に継承されるもの」ということで、アイヌ語と自然の関係についてフォーカスをした群としたい。

3) - 1、「碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢」として、札幌の町並みを特徴づける碁盤の目のまちづくりと、開拓使判官やお雇い外国人などの人にフォーカスを当てた群としたい。

3) - 2、「メムが育み発展した産業」とし、豊平川の扇状地に湧いていたメムと札幌の開拓の関係など、産業にフォーカスを当てた群としたい。

4) - 1、「北の地を守り開拓した屯田兵が残したもの」については、各地で築かれた歴史文化の特徴から、屯田兵にフォーカスをした群としたい。

5) - 1、「国際都市へと札幌を発展させた冬季オリンピック札幌大会のレガシー」として、オリンピックの開催を機につくられた施設や町並みが現在も市民や観光客に親しまれていることについてまとめた群としたい。

6) - 1、「雪国の大都市さっぽろで育まれた雪を楽しむ暮らし」として、季節と暮らしに関する特徴、市民の暮らしの中の雪、雪まつりや、市民の活動から生まれたお祭り、スキー、スケートについても歴史、それらにフォーカスを当てた群とした。

6) - 2、「新緑の中の札幌まつりに代表される季節の風物詩」として、こちらも季節と暮らし関連の群であるが、アイヌの関連については前回委員会でご指摘いただいたとこ

るであり、まだ文献調査などで肉づけが必要と考えている。

6) - 3、「姿を変えながら市民生活を支え続ける路面電車」として、路線延伸の時代から縮小の時代、ループ化を遂げた路線や車体の変化を遂げてきた路面電車と市民の生活にフォーカスした群にしたいと考えている。

7ページ目、関連文化財群のストーリーと整理のイメージとして、前回は一度載せているが、3) - 1の「碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢」の内容について、最終的には一つ一つの関連文化財群はこれぐらいのボリュームになるというイメージで載せている。

(質疑応答)

○阿部(一)委員 「酋長」という記載が4ページの3) - 2にあるため、これも修正が必要。

○西山副委員長 3ページの(1)で「札幌市の歴史文化の特徴別に関連文化財群のストーリーを以下のように設定」とあるが、9の関連文化財群をここで決めてしまうつもりのように見える。関連文化財群の検討の仕方は、包括堅持である程度委員会で全体を決めて、それを1個ずつ豊かにしていくというタイプと、そうではなくて、呼び水として1個か2個、一生懸命取り上げてやって、それに続くものを後から市民の皆さんとか時代が変わっていく中で新しく取り上げていったらどうかという考え方と、大きく2タイプあったと思うが、今の流れは、この委員会でやろうとしているのはどちらであったか確認しておきたい。

9つのものをここで議論して詰めだしたら、もう詰め切れないと思うし、時間的にも破綻すると思う。この計画書の中で、札幌市の歴史文化基本構想では、関連文化財群をどのように考えているのかというような概念的なところ、その辺をここで確認しておかないと。

○事務局 本当は1、2個、フォーカスを当てて、この場で決めていくということで理解しながら進めているが、表現の仕方がまだ足りていない部分があった。

○角委員長 最初に委員会で、今後もいろいろ増えていく可能性があるかと確認していた。事務局として9つの例を示していると理解してよいと思うが、西山副委員長が気にしていたのは、多分これで何か完成形だというふうに思われると、まずいのではないかということ。今後(次の世代の人たちが、関連文化財を増やしていけるよう)、その展開の仕方の、もしくは検討の仕方の作法というか、そういうことが示されているとよい。

○羽深委員 今、3章のほうで札幌市の文化財の特徴を整理し、各区の説明を文化財に焦点を当ててまとめているが、現状では第4章も同じような内容になってしまう。これからワークショップとか連合町内会長さんのお宝とかアンケートをとるわけだから、その結果を反映し、市民レベルでどう見ているかみたいなものをまとめるなど、工夫(3章と4章の差別化)をしては。

○西山副委員長 なので、例えば3ページでは関連文化財群と書いて下に9つ出ているた

め、その関連文化財群の名称のように感じる。一番上、「変化に富む地形と先人たちの歩みが今に伝えるもの」を探したら、こういうものが見つかる。いわばメッセージというか、「1の特徴から言えば、こんなものが探せるのではないですか」と言っていると理解して、気持ちを楽に議論する。ただ、1個か2個だけは一生懸命やりましょうと、詰めて、名称も考えてというのがいいかなと。

○前田委員 今のような考え方について4章の1の設定の考え方の最初に書いて、そしてその事例だということがわかるような形で2以降が始まる形はどうか。

○角委員長 それでよいと思う。

○西山副委員長 そうだとしたら、ここでの今日の議論は、これが合っている、間違っているとかいうのではなくて、もっとこういう切り口があるんじゃないのかという話をすべきで。ただ、もう一つは、1、2個、一生懸命やるものは何なのかということを絞ることかと思う。

○角委員長 事務局としては一生懸命やっているものだから、せっかくのプロセスの中で気がついたことは、この際やっぱり何か残しておきたいと。それはそれで、次の世代の人が調べ直すというのは大変なことなので、そこは上手に残したほうが良いとは思う。

先ほど羽深委員が言われたように、ストーリーの展開の仕方として、何かしら例示が出てくると、今度は各区だけではなくて、もうちょっと小さな地区の中でも、こういうことをうちらでもやりたいねというのが出てきたりする、そういうことを促すことを意識していくとよい。

○羽深委員 これからのワークショップとか、アンケートもあるし、第4章はおもしろさも意識して、先ほど西山副委員長が言った雪の話や、阿部委員のアイヌの視点などを取り入れていくとよい。

○西山副委員長 一つアイデアとして、札幌市は道路や公園や街路樹の考え方で都市計画が雪国仕様。その見方を教えてくれたら、外から来た人というのはすごくおもしろいところがあって、それがちょっとスケールダウンすると、屋根や窓やひさしの考え方など建築様式など、それらを代表する通りとか、代表する文化財の建物とかがもし幾つか拾い上げられたら、地元の人も、外から来た人ももちろん、もっと楽しめると思う。ぜひ、それを1個突っ込んでやってもらえるとうれしいなという気はします。

○角委員長 ほかの地域ではできないものが札幌のまちでできるというのは、すごく魅力。

○川上委員 ネーミングの問題で、私が一つ気になったのは、4ページの3) - 1の「碁盤の目の街並みと開拓使が描いた夢」というところ。概要はまさにそのとおりだが、明治政府による開拓使、北海道の開拓ということに対する歴史的評価は、必ずしもプラス面ばかりではない。「夢」という言い方だと、絶賛しているようなイメージにつながるので、この辺の表現は少し考えた方がよい。

○西山副委員長 碁盤の目というと、日本中、世界中にある。例えば「変化に富む地形と

先人たちの歩み」についてもありふれていると感じる。開拓使が使ったグリッドをあえて使うなど、全体として、観光利用もしたいという観点から、外から興味を引くという工夫はタイトルなどにも必要。

○岡本調査官 第3章が「札幌市の文化財」との題で、文中、「4文化財の特徴」との項目を設けているが、その内容として札幌の歴史文化の特徴が書かれており、混乱がある。文化財の特徴と歴史文化の特徴というのは区別すべきで、文化財の特徴というのは、先ほどから西山副委員長の話にある、例えば寒冷地に特化しているような建物の特徴、屋根の勾配がこうであるとか、ひさしがこうであるとか、窓はこうであるとか。例えば、町割りだったら、消雪溝があるとか、雪おろしとか、そういったものに適した道幅になっているとか、そういったことが恐らく個々の文化財もしくは要素における特徴と捉えられるのだが、それを総括的に見たものが歴史文化の特徴になると思う。

歴史文化というのは、いろいろな文化財と、それにかかわるさまざまな要素が一体になったものというふうに定義されていて、文化財とそれ以外のものを含めたもの。それをここで一緒に扱っているのが、ちょっとややこしくなっている原因では。

○事務局 確かに文化財の特徴という大枠の中で、改めて読むと違和感がある。

○角委員長 最初に「文化財」の定義をした。そのときに、いわゆる文化財ではなくて、もう少し広範なものにするというふうに言い切って、スタートしたのが、誤解を招く原因かもしれない。

○岡本調査官 ただ、この定義のところでも、周辺環境まで含めて把握というのは、周辺環境を文化財にするということではないと思う。

○角委員長 そのとおり。文化財と周辺環境は分けて考える。

○事務局 文化財は幅広く捉えるが、周辺環境はあわせて、一緒に捉える、把握するというふうに言っている。

○岡本調査官 恐らく周辺環境というのは2章で語られていることで、2章で拾い上げた周辺環境と3章の、本来である文化財の特徴を踏まえた上で歴史文化の特徴が出てきて、そこからは関連文化財が出てくるという流れになると思う。そこをちょっと意識していただくとうい。

○事務局 文化財の特徴を4、5に歴史文化の特徴とするなど、章立てを検討したい。

4 その他

○角委員長 きょうの議論の中にはないが、2章のところ、参考資料の1と2について、開会前に阿部委員から、2章について意見があるとのお話があったため、共有しておきたい。

○阿部（一）委員 第2章、札幌市の姿という中で（19ページ）、中世から近世というところでアイヌ文化期とある。この記載では、いわゆるアイヌ文化期というのは鎌倉時代以降と読めるが、石器時代から縄文時代、大陸と陸続きのときに樺太から、大陸から人が

渡ってきた。その人たちと現代のアイヌの人々のDNAが似ているという調査結果がある。そういうことを考えると、大陸と、もちろん陸続きのときからアイヌがいたわけだとなれば、アイヌ文化期と切っていいのかとの考えもある。

本州と北海道の間は有名なブラキストン線で区切られることから、自然環境が大きく異なるが、そういう中で、私たちの先祖というのは大地と一体となって暮らしてきたという価値観があるが、北海道の市町村で、札幌が一番アイヌ語の地名が残っている。

19ページの書き方で、アイヌ民族が、松前藩を相手に交易をしていたことには触れているが、石狩十三場所の記載まで、何百年も飛んでしまったり、そこから「農業開拓のはじまり」までの間にもアイヌ民族の記述がないので、いきなり開拓が始まったような印象を受ける。明治維新、今から150年前に、(政府が)アイヌから日本の4分の1もある樺太、千島、北海道の土地を全部取り上げてしまった。狩猟、漁業、採取、アイヌ語や文化も禁止されてということを書くとはいらないが、そうした歴史のことを話す場で、アイヌ文化があったために、和人も自然を大切にして、北海道を開拓することが出来たという感謝の言葉を聞くこともある。歴史の記述の中でアイヌ民族について空白の何百年かをつくられるというのは、もう少し記述を考えていただければと思う。

○川上委員 各区の歴史文化についての記載のところ、豊平区の月寒のところで「軍都」という言葉も入ったが、月寒に置かれていた「歩兵第25連隊」というキーワードも重要なので、記載の検討を。

○甲地委員 後できちんと統一するのだと思うが、出典とか参考資料の書き方が結構不ぞろいなので、最終的に統一すべき。

○往田委員 農業についてタマネギや山口スイカの記載があったが、今また札幌産の食べ物ということで、サッポロスイカも、大浜みやこも、札幌大球も、力が入れているが、宅地化の流れの中で途絶えたものもあり、例えば札幌の稲作などは古老たちによって地域にしか伝わっていない情報だったりする。それら両面の記載があるとよい。

また、産業について、札幌ならではの、例えば商業、鉱工業など、地産地消で頑張ってきた歴史について、市民生活と切り離せないものとして触れてはどうか。

○角委員長 ストーリーと関連文化財群の部分で、札幌軟石や煉瓦のような札幌を代表する建築材料についてはどこかで触れられないのか。

○事務局 (軟石は)現状、南区部分で記載していたが、関連文化財群の切り口としてもあり得る。

○角委員長 札幌の中での、特にほかの地域と違うものというのは、やっぱりクリアに書かれているほうが、納得感があるので、その辺を意識した方がよい。

本日の話の中では、積雪寒冷地という一つのキーワードの中での展開についてもそうだし、時代区分をどうするかという話も出た。少し事務局のほうで整理をし、他にない歴文構想ができるといいと思う。

○山舗委員 先ほど芸術文化という話があったが、教育文化というのはどこにもなく、こ

れについて議論があつてよい。

○**角委員長** 地区の中の特徴とも関連するが、やっぱり地域の中でのコアとして、学校というのは大事。

○**川上委員** 22ページに遠友学校の開設という項目があるが、札幌は北海道の中でも学校が多く歴史もある。遠友学校だけではないかなというふう感じた。

○**西山副委員長** すべてを掘り下げるのは不可能なので、教育以外にも、いろいろな専門の方々の意見を聞いて、今後のために、これからやるべき切り口としてきちんと記述しておくことが大切。先程の阿部委員の意見にある、札幌が一番豊富にアイヌ語の地名が残っているという話なども記載していければ。

○**羽深委員** 確認だが、2章で札幌の姿というものを、3章で文化財についてまとめ、4章では2章と3章を踏まえて、札幌らしい歴史文化の話をするということで大枠はよいか。その際、3章で扱う文化財には、国の指定もあれば道の指定もあるし、市の指定もあるから、それはとにかく一度こういう、第3章の14ページの表でまとめて整理し、4章では、例えばアイヌや、雪などに着目して語るという理解でよいか。

○**角委員長** 第3章で、「札幌市の文化財の特徴」というふうに書いていながら、同章の15ページのところには札幌市の歴史文化の特徴という項目があるものだから、その辺が少し混同している。そこをもう少しクリアにすれば良いことかと思う。

○**岡本調査官** 今日の委員会、すばらしい意見がたくさん出ていた。特徴については何でもかんでも拾わず、外に向けて示すべき点を明確にして、それに関連することを集中的に書かないと、市史みたいなものになってしまう。関連文化財群とか歴史文化の特徴を説明するための前段として周辺環境の話もある訳なので、できるだけ無駄を省いて、本来書くべきことに注力していけば、すばらしいものができるのではないかと思う。

閉 会

○**事務局** 次回委員会について、11月8日（木）の午前中を考えている。

この日までに、いただいた意見を踏まえて、よりよい案を事務局でまた仕上げていきたい。各専門の委員の先生方に個別に相談に伺うこともあると思うが、その際にご協力をお願いしたい。